

⑬ 高宕山ハイキング

房総の代表的なハイキングコース 360度の眺望と雨乞い信仰の山

【概要】房総半島の上総丘陵の南部に位置し登山気分が味わえる山。頂上は360°の眺望が開ける。小糸川の源流部、高宕川沿いの林道は、様々な動植物や野鳥、地質地形など自然観察の宝庫。高宕の大滝は古い断層を流れ落ちる滝であり、近くに上総丘陵と安房丘陵を分ける黒滝不整合が位置する。

【森林の特徴と見所・歴史文化】

高宕山は、房総半島ではほとんど唯一、登山気分が味わえる山と言えるかもしれません。房総の山々は、頂上近くまで道路が通じており、頂上まで歩く距離はわずかですが、高宕山(315m)は、片道最低1時間余歩かなければ頂上に立つことができません。頂上は360°の眺望が開けます。地元の人々は、正月に、ご来光を拝みに登ります。

高宕山系は、房総半島の中央部上総丘陵の南部中央、東側の君津市と西側の富津市の境に位置し地質は第三紀で急峻な山岳地形を呈しています。

東側には、小糸川の源流の一つである高宕川が南から北に流れており、川に沿って林道高宕線があり、林道怒田沢線と接続して三島神社のある宿原に抜けています。但し、この林道は自然の保護と安全の観点から車両通行止めとされています。この林道を含む両側の斜面は急峻で、自然度も極めて高く、林道を散策するだけでも、様々な植生、野鳥、昆虫、動物の観察ができます。しかし、同時に落石や崩壊にも十分注意する必要があります。

▶植生等

山頂近くを通る南北の尾根筋の歩道は、「関東ふれあいの道」となっており、スギ・ヒノキの人工林、コナラ、ヤマザクラ等の二次林、モミの巨木の天然林が高木層を形成しています。広葉樹では、ウラジロガシ、アカガシ、イチイガシ、アラカシ、スタジイ、タブノキ等が見られ、中低木ではシラキ、ガマズミ、コバノガマズミ、ウリカエデ、エンコウカエデ、ミズキ、ヤマボウシ、アズキナシ、沢沿いには、フサザクラ、タマアジサイ、ケイワタバコ、イズノシマダイモンジソウ、リンドウ等季節の草花を楽しむことができます。

▶雨乞い信仰

千葉県の房総半島中南部に連なる房総丘陵は、標高が低く地形が急峻であることから、降った雨

は直ちに下流へ流れて出てしまいます。小雨の夏は水不足となったため、多くの雨乞い習俗が伝えられています。

高宕山の東側山麓の君津市三島の三島神社には、かつて干ばつの年に、雨乞い祈願に応えた竜神に感謝する獅子舞いが、毎年秋祭りに奉納されています。同じ話は、すぐ南の安房地方、鴨川市長狭や鋸南町佐久間にも伝えられているといわれ、さらに、その周辺地区にも雨乞い習俗が伝えられています。雨乞いに関係深い神々として、タカオカミノカミ・クラオカミノカミ・ミツハノメノカミ・アメノクマリノカミを祭る神社があり、この地方の農民は干ばつの時に参詣し、火を焚き、雨乞い祈願をしたとされます。

高宕山山頂には清滝神社(祭神はタカオカミノカミ)が祭られ2つの釜があり、日照りのときに、ここから自分の田んぼまでこぼさずに水を運ぶ「お水かり」の習俗があります。ほかにもこの地域の雨乞い習俗は枚挙にいとまがありません。

【コース紹介】

▶植畑～高宕林道～大滝

高宕川に沿って、高宕林道を北から入るコース。植畑から高宕第一トンネルまでは、道幅も広く車両で進入できます。高宕林道を徒歩で大滝まで歩き、急坂を登り、尾根にでて、頂上に向かいます。

▶奥畑～関東ふれあいの道

最近では、高宕山登山の一般的といえるコースで、清和県民の森を抜けている国道410号線沿いの奥畑の登山口から、関東ふれあいの道に指定されている尾根道コースです。奥畑登山口には、駐車場が設置されています。頂上まで1時間10分程度の行程です。

車が2台があれば、林道高宕線入口のトンネルに1台を置き、高宕大滝から直登する周回コースを設定することができます。

登山としては往復4時間程度で可能ですが、観

察、昼食の時間も含め、できればたっぷり時間をかけて歩きたいコースです。途中、急峻な岩場もあり、十分な足ごしらえが必要です。

頂上にはトイレがないので、特に女性はお花を摘むとき、崖から落ちないように注意が必要。



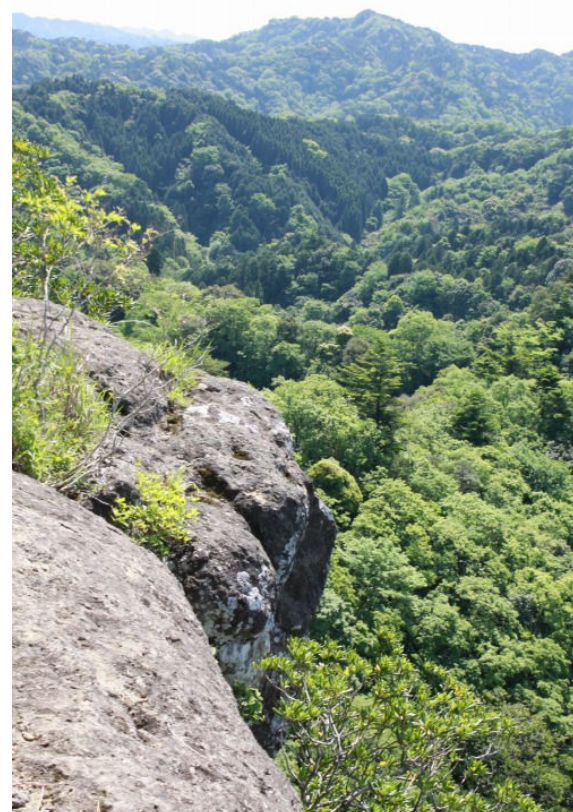
高宕川沿いのケイワタバコ



イズノシマダイモンジソウ



林道高宕線の素掘のトンネル



高宕山頂上からの眺望